

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 一人ひとりの生徒を大切にし、豊かな人間性と確かな学力、課題解決能力を育み地域との連携を推進しながら、地域に貢献し地域で活躍するリーダーをはぐくむ学校
- 高い志を持って、人のため社会のために尽くし、共に学び、ともに進歩・成長する人材を育てる学校
 - 基礎的な知識や技術を習得し、それらを活用して自ら考え、実践を通じて深く学び表現する力を育てる学校
 - 他者の大切さを認め互いに助け合い、よりよい社会を創っていく責任感と規範意識を持ち、自立して社会を支える力（豊かな人間性）を身に付けた社会に貢献できる人材を育てる学校
 - 羽曳野市唯一の高等学校として、地域連携（地域とともに、「学び」、「歩み」、地域に貢献し、地域から信頼され、地域で活躍する）を推進する学校

2 中期的目標

- 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成
 - 生徒の「学ぶ力」を最大限に伸ばす教育課程の編成と授業力の向上を図る。
 - 「基礎的な学習」から「発展的な学習」まで生徒のニーズに応じた学びを支援する。
 - 習熟度別授業、少人数授業、実習・体験型授業の効果的な運用を図る。
 - 生徒の主体的な「学び」へつながる授業研究と観点別評価を行い、授業の改善と充実を図る。
 - 1人1台端末やICTを活用した授業内容の点検・改善を図る。
※授業アンケート（2回）の学校平均 3.25（R4：3.24、R5：3.23、R6：3.19）をめざす。
 - 教員が一人ひとりの生徒の「学び」を支援する時間を確保するための働き方改革を推進する。
- 知・徳・体の調和のとれた教育をとoshi、豊かな人間性をはぐくむ
 - 規範意識醸成のため、あいさつ運動やマナー向上の全校的取組みを推進する。
 - 家庭との連携のもと、生徒一人ひとりの課題に向き合った生徒支援に取り組む。
 - 挨拶が飛び交う明るい校内環境の醸成に取り組む。
 - ルールやマナーを遵守し、モラルを高めるための「心の教育」の充実を図る。
 - 生徒一人ひとりが安心して安全な学校づくりをめざす
 - 教育相談体制を充実させるとともに、学校と家庭が緊密な連携と情報共有を行いながら生徒を支援する。
 - 教員がカウンセリングマインドを持って生徒を支援し、生徒との信頼関係を築いた教育活動を行う。
 - 豊かな人間性の形成に寄与する人権教育を展開する。
 - 生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性をはぐくむとともに、人権が行き届いた安全で安心な学校の環境を醸成する。
※学校教育自己診断における「挨拶をする」生徒の割合 90%以上（R4：85.6%、R5：83.5%、R6：90.1%）、「気軽に相談できる先生がいる」生徒の割合 75 %以上（R4：63.2%、R5：73.6%、R6：67.8%）、「人権について学ぶ機会がある」生徒の割合 85 %以上（R4：80.1%、R5：86.7%、R6：84.1%）をめざす。
- 「志」や「夢」をはぐくみ、自己実現の達成を図る
 - 進路目標設定から進路実現まで3年間を見据えたキャリア教育を中心とした進路指導を展開する。
 - 生徒の進路実現に向けた進路指導体制を構築して、講習・補習などの手厚い学力支援体制を確立するとともに、キャリア教育の一環として英語検定、パソコン検定等の外部検定に生徒がチャレンジすることを一層促進する。
 - 近隣大学（四天王寺大学・関西福祉科学大学等）や関係機関等との連携を通して、生徒が進路意識を高め、進路実現のための学習や体験ができる機会を確保する。
※学校教育自己診断における「将来の生き方について考える機会がある」生徒の割合 90%以上（R4：86.9%、R5：88.5%、R6：89.1%）をめざす。
- 地域と連携した魅力のある学校づくり
 - 地域、学校教育活動に関連した関係諸機関との連携を学校の教職員・生徒があらゆる場面で充実させていく。
 - 広報活動を強化し、本校の魅力を広く周知する。
 - PTA や NPO 等と連携し、地域の福祉活動・環境保全活動に取り組む。
 - 地域の外部人材や施設を活用し、体験的な授業や講座を開催する。
 - 生徒や教員が地域に出向き積極的な交流を図る。
※学校教育自己診断における「大学の先生をはじめとして外部の先生から授業を受けたり話を聞く機会がある。」生徒の割合 90%以上（R4：80.8%、R5：81.2%、R6：87.3%）をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【学習指導】 授業はICTを駆使した工夫されたものであり、「楽しい」と感じる生徒が多いことがわかる。（生徒：「授業はわかりやすく楽しい」80.3%、「生徒用端末を活用したわかりやすい授業が多い」80.4%、「プロジェクターやプリントなど補助教材を活用したわかりやすい授業が多い」92.0%）（保護者：「生徒用端末を積極的に活用して授業を実施している」82.4%、「プロジェクター・プリントなどの補助教材を積極的に活用して授業を実施している」86.4%） 【生徒指導・教育相談】 教員の生徒指導・教育相談活動に関する信頼が比較的高いことがわかる。（生徒：「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」83.5%、「いじめについて私たちが困っていることがあれば先生は真剣に対応してくれる」83.1%、「学校生活に関する先生の指導は納得できる」79.3%）	第1回（6月25日） - 個別最適な学びをめざして生徒のニーズに応じた学びに取組み、また、生徒支援を強調して取組んでいくことを期待している。 - 授業で生徒と信頼関係を築き、様々なことを相談できる関係を作ってほしい。 - 生徒の声を聞いて先生と一緒に学校づくりをすることを期待している。 - 生徒を主役にして失敗できる機会を与えることが大事。 第2回（11月26日） - 懷風館高校のイベントで羽曳野高校の卒業生を集めて在校生を盛り上げたい。 - 卒業生として協力して在校生にいい思い出を残してあげたい。 - 社会に役立つコミュニケーション能力を養うため、地域の方の協力のもと、様々な活動の場に参加し、生徒同士で経験を共有するとよい。

（保護者：「すべての教育活動においてプライバシーや人権が尊重されている」 84.9%） 【進路指導】 教員の進路指導について満足感が比較的高いことがわかる。（生徒：「将来の進路や生き方について考える機会がある」 89.8%、「懷風館は進路や関連する奨学金の情報を知らせてくれる」 92.1%、「大学や事業所などの外部の人から授業を受けたり話を聞いたりする機会がある」 89.4%）（保護者：「進路指導のシステムは信頼できる」 76.5%、「進路についての情報が提供されている」 81.1%） 【学校運営等】 ・学校の協力体制について一定の評価を得ている。（生徒：「先生は協力して生徒指導にあたっている」 90.4%、保護者：「教職員は協力して学校運営に取り組んでいる」 83.5%）一方、部活動参加率（59.9%）や保護者の学校行事等への参加率（48.9%）については改善に向けて工夫する余地がありそうである。	第3回（1月21日） ・生徒が自発的に何かに取り組むことで学力が向上し、責任感も持つようになる、という事例がある。子供の力を信じることが大切であると感じる。 ・子供から自主的な行動を引き出すよう、地域と学校が協力していくことも必要。 ・学校は生徒が卒業しても、いつでも帰ってくることができる場所であってほしい。 ・生徒を主役にした取組みをさらに進化させてほしい。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成	（1）基礎的な学力の定着と主体的で対話的な深い学びをめざした授業改善の取組みを推進する。	（1）教員の指導力の向上を図る。企画委員会、学ぶ力育成委員会が中心となり、アからエに組織的に取り組む ア 授業改善 ・年間2回の授業公開、全教科による研究授業の実施などにより、教員自らが積極的に授業改善に取り組む組織を構築する ・授業アンケートの実施とその分析及び課題解決に取り組む。 イ ICT 活用の推進 ・ICTを活用したわかりやすい授業づくり ウ 校内教職員研修の充実 ・ICT活用研修、進路指導研修、経験年数の少ない教員に対するOJTや経験の豊かな教員による研修の実施 エ 専門コースと系の特色づくり ・外部機関と連携した体験学習やグループワーク・プレゼンテーションの工夫 ・専門コース科目「サービスラーニング基礎・実践」など、専門コースの科目編成、内容の点検・改善	（1） ア・授業アンケートによる肯定的評価の向上 [2回平均 83.6%] ・学校教育自己診断「授業はわかりやすい」生徒の肯定率 70%[69.8%] ・学校教育自己診断「授業でわからないことを先生に質問しやすい」生徒の肯定率 77% [76.2%] イ・学校教育自己診断「ICTを活用し、わかりやすい授業をめざしている」教員の肯定率の向上 [82.8%] ・学校教育自己診断「プロジェクターやプリントなど補助教材を活用したわかりやすい授業が多い」生徒の肯定率の向上 [87.3%] ウ・校内研修の実施回数 8回[8回] ・学校教育自己診断「校内研修は教育実践に役立つような内容となっている」教員の肯定率の向上 [82.8%] エ・学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」生徒の肯定率 77% [76.4%] ・学校教育自己診断「自分が学びたいと思う系列・コースや選択授業がある」生徒の肯定率の向上 [74.4%]	（1） ア・授業アンケートによる肯定的評価の向上 2回平均 84.4%（○） ・学校教育自己診断「授業はわかりやすい」生徒の肯定率 80.3%（◎） ・学校教育自己診断「授業でわからないことを先生に質問しやすい」生徒の肯定率 75.1%（○） イ・学校教育自己診断「ICTを活用し、わかりやすい授業をめざしている」教員の肯定率の向上 91.3%（◎） ・学校教育自己診断「プロジェクターやプリントなど補助教材を活用したわかりやすい授業が多い」生徒の肯定率の向上 92.0%（◎） ウ・校内研修の実施回数 3回（△） ・学校教育自己診断「校内研修は教育実践に役立つような内容となっている」教員の肯定率の向上 75.0%（△） エ・学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」生徒の肯定率 72.9%（○） ・学校教育自己診断「自分が学びたいと思う系列・コースや選択授業がある」生徒の肯定率の向上 76.6%（○） ◇生徒の実態に合わせ、普段から教員が授業について計画から実施まで工夫を積み重ねてきた成果が表れている。今後も引き続き授業力向上への取組みを進めていく。
	（2）働き方改革を推進する	（2）教員が自らの心身の健康に留意し、生徒と向き合う時間を確保するため働き方改革を推進する。 ア 校務の効率化 ・ICTを活用するなど校務の効率化を図るとともに、教員の時間外在校時間削減に取り組む。 イ 部活動方針の遵守 ・部活動方針が遵守された活動が行われているか年に2回部活動実態調査を実施する。	（2） ア・学校教育自己診断「ICTを活用しながら校務の効率化を図っている」教員の割合 90%[89.6%] イ・年2回部活動実態調査を実施	（2） ア・学校教育自己診断「ICTを活用しながら校務の効率化を図っている」教員の割合 91.3%（○） イ・年2回部活動実態調査を実施（○） ◇少しずつではあるが校務効率化の効果が表れている。引き続き地道な取組みを進めていく。

2 知・徳・体の調和のとれた教育をとおし豊かな人間性をはぐくむ	(1) 生徒一人ひとりに生き方あり方を探求させ、豊かなところと規範意識を醸成させる	(1) 規範意識の醸成 ア・あいさつの励行 ・毎朝の「おはよう運動」、年3回のあいさつ週間（各1週間）を実施。 イ・今日的な課題に柔軟に対応した生徒指導 ・遅刻、身だしなみ、マナーなど規範意識を醸成する指導を全校的に行う。 (2) 教育相談体制の充実 ア・教育相談委員会を中心に生徒情報の共有化を行い、課題を抱える生徒や支援が必要な生徒に対して迅速な対応を行う。 イ・SC やSSW を活用するなど、教員の教育相談能力の向上を図る。 (3) 人権教育の推進 ア・あらゆる教育活動の場において、人権感覚を育成する取り組みを行う。 イ・「いじめへの対応」の学校信頼度を上げるとともに、外部人材を活用するなど「人権尊重の大切さについて学ぶ」機会を増やす。	(1) ア・学校教育自己診断「挨拶をする」生徒の肯定率の向上 [90.1%] イ・学校教育自己診断「学校生活における先生の指導は納得できる」生徒の肯定率82% [81.2%] (2) ア・学校教育自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」生徒の肯定率81% [80.4%] イ・学校教育自己診断「学校はカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」教員の肯定率82% [81.5%] (3) ア・学校教育自己診断「人の生き方・命の大切さ・社会のルールを学ぶ機会がある」生徒の肯定率88% [87.1%] イ・学校教育自己診断「いじめについて困っていることがあれば先生は真剣に対応してくれる」生徒の肯定率の向上 [77.5%]	(1) ア・学校教育自己診断「挨拶をする」生徒の肯定率の向上89.9% (○) イ・学校教育自己診断「学校生活における先生の指導は納得できる」生徒の肯定率79.3% (○) (2) ア・学校教育自己診断「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」生徒の肯定率83.5% (○) イ・学校教育自己診断「学校はカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」教員の肯定率69.6% (△) (3) ア・学校教育自己診断「人の生き方・命の大切さ・社会のルールを学ぶ機会がある」生徒の肯定率89.9% (○) イ・学校教育自己診断「いじめについて困っていることがあれば先生は真剣に対応してくれる」生徒の肯定率の向上83.1% (◎) ◇生徒指導、教育相談の日常的な取り組みの成果が表れている。今後も学校全体として生徒支援の考えをより一層深め取り組んでいく。
3 「志」や「夢」を 自己実現の達成を図る	(1) 自己（進路）実現に向けた進路指導の充実	(1) 生徒の進路意識の高揚や、自己（進路）実現の達成 ア・キャリア教育を中心とした進路指導 ・進路体験行事、懷風館ミナ（大学等の出前講義）等の実施及び進路情報の提供 イ・補習や進学講習などの機会を充実させる ・教育産業とも連携しながら、生徒の希望進路の実現に向けた意識を高める。	(1) ア・学校教育自己診断「進路についての情報提供がされている」生徒の肯定率86% [85.5%] イ・学校教育自己診断「放課後や早朝の補習や講習に参加している」生徒の割合の向上 [39.8%]	(1) ア・学校教育自己診断「進路についての情報提供がされている」生徒の肯定率92.1% (◎) イ・学校教育自己診断「放課後や早朝の補習や講習に参加している」生徒の割合の向上43.6% (○) ◇一人ひとりの生徒のニーズに応じた進路指導が浸透し、生徒及び保護者の満足度につながっている。引き続ききめ細やかな指導に努めていく。
4 地域と連携した魅力のある学校づくり	(1) 地域密着型高校として広報活動と学校の魅力の発信 (2) 地域と連携した取り組みの推進	(1) 学校の様々な取り組みを、中学校の生徒、保護者、教員や地域の方々に理解してもらう。 ア・学校説明会、体験入学を充実させる。 イ・中・高の教員間の交流を推進する ウ・学校HP やSNS を活用した情報の発信 (2) ア・福祉ボランティアや地域と連携した活動等で生徒が地域に出る体験活動を推進する。	(1) ア・学校説明会等への参加者数の増加 [延べ376名] イ・教員研修や研究授業等を通じて中・高の教員間で交流を実施[3回] ウ・校長ブログやSNS等を通じて日常的な学校の様子を発信 [校長ブログ65回、SNS650回] (2) ア・地域清掃や地域と連携した体験活動を実施 [8回] ・学校教育自己診断「他の学校や幼稚園・保育園などと交流することがある」生徒の割合の向上 [63.0%]	(1) ア・学校説明会等への参加者数の増加 延べ65名 (△) イ・教員研修や研究授業等を通じて中・高の教員間で交流を実施2回 (△) ウ・校長ブログやSNS等を通じて日常的な学校の様子を発信 校長ブログ56回、SNS600回 (△) (2) ア・地域清掃や地域と連携した体験活動を実施 8回 (○) ・学校教育自己診断「他の学校や幼稚園・保育園などと交流することがある」生徒の割合の向上65.6% (○) ◇羽曳野市、地域の方々、中学校の先生方、卒業生の皆さまにご支援いただき教育活動を充実させることができた。今後は在校生の学校生活の充実により一層重点を置き連携していく。